会員のひろば

県境の村、秋ノ宮

菅　亨

昨年度より会計を担当してます。よろしくお願いします。

私は県境の村、秋ノ宮で生まれました。平成の合併で湯沢市になりましたが、雄物川支流の役内川が流れる耕地の狭い農村です。宮城県境の鬼首峠とタイガースファンが詣でる虎毛山、山形県境の神室山があって山ツウの方々にはそれなりに知られた山です。

昨年辞任した菅前総理も我が村の出身で、就任した頃は実家見学者？で少し賑わったらしいです。通っていた小・中学校は廃校になり、冬は下宿して通った横手工業高校も今は名前を変えて移転、育てていただいた田舎の環境もさま変わりしましたが、なぜか明るくて温かみがある。やっぱり古里です。

と言いつつ、実家も代替わりしているので、ずっと実家に置いてあった戸籍を最近海老名市に移しました。一抹の寂しさを感じております。海老名市が終の棲家となるでしょう。

ここ二年ほど前からは知り合いの方の土地で、蒔けば生えてくる簡単な花や虫食いだらけですが野菜などを育てて畑仕事を楽しんでいます。■

虎毛山

このごろ思うこと

橋本　真理子

ウクライナとロシアの戦争のニュースを目にするたび、心が痛み思い出すことがある。

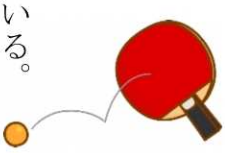
戦争経験がある父に戦争のことを聞いても話したがらなかった。それほど辛かったのだろうと察し、さらに追及して聞くことはしなかった。

晩年それとなく私が「世の中から戦争が無くなるといいな」というと、「無くならねぇ！人間は愚かだ。」と呟いていた。今のこの戦争のことを知らずに亡くなったが、もし知ったなら、きっと悲しんだことだろう。どうか一日も早く平穏な生活が来ますように。

私には孫が５人いるが、会うたび目を見張る成長ぶりに喜びを感じている。先日５歳の孫にせがまれ、トランプの“神経衰弱”をした。１年前は私が勝つ余裕があったのになぁ…今はもう負けてばかりだ。「おばあちゃん、別のをする…？」と気を使われ、大笑い。まあ、脳活と思って拒まずに挑戦していこうと密かに思っている。

元気な孫達に負けていられないと、卓球をこよなく楽しんでいる今日この頃、私の手帳は卓球の予定でビッシリ埋まっている。

コロナ禍、それなりに感染予防に気を付けながら、いつの日かマスク無しでおしゃべりできる日常が戻りますように、と願わずにはいられません。■



「へば」と「まず」

小野　勝雄

ある日の朝日新聞の朝刊に秋田の方言にからむ文が投稿されていた。とても懐かしい方言だったので是非紹介させていただきたく。

コロナ禍でなかなか会えない友人との連絡に、携帯電話のメールが多くなった。

何度かやりとりして、今日はこの辺で終わりかな？返信しないでこのまま終わっていいのかな？とモヤモヤした気持ちになることがある。

そんな時、長野出身の友人が、メールの最後に「へば」と送信してきた。それが、私の故郷の秋田の別れ際の挨拶だと知って、送ってきてくれたのだ。「あ、こんなに便利な言葉があったじゃないか！」と気付かされた。

秋田では、「へば」を「それじゃあ」などの意味で使う。一方「まず」は「またね」だろうか。「へば、まず」で「じゃあ、また」というニュアンスだ。

試しに首都圏に住む秋田出身の友人に「へば」を使ったら、懐かしいと大うけだった。

秋田に住む妹からは「へばなぁ～」と、独特の柔らかさがある秋田弁が返ってきた。懐かしく、嬉しかった。

この懐かしい言葉、当県人会でも会員同士の会話に取り入れられたらなぁ…。■

会報の記事大募集！

新型コロナウイルス感染拡大予防のために、市や県人会の行事が中止になったほか、会員の方からの原稿も届かず会報の発行を一時中断しておりました。行事はできなくても会報は発行できます。しかし、いざ記事を載せようとしても役員からだけでは面白味がありません。どうしても皆さんからもご投稿を頂いて多くの方の幅広い愉快な記事を集めたいと願っております。難しく考えず気楽にご寄稿頂けますよう、ご協力お願いいたします。

「編集後記」

今までこの会報は年２回発行してきましたが、コロナ禍で行事ができず、掲載したい話題もなかなか見つからず、発行を一時休止しておりました。

しかし、このままでは県人会の存在すら危うくなるし、これまで築き上げてきた会員同士のコミュニケーションも取れなくなってしまいそう。せめて会報だけでも発行しようと７月の役員会で相談し、今回２年半ぶりの発行に至りました。来春の総会時にも発行する予定です！

残暑厳しいですが、皆さんお元気で実りの秋を迎えましょう。

「へばなぁ～」　（小野）（川村）■